

観光ホスピタリティ クリスタル

事務局 旭川市常盤通 1 丁目 旭川観光協会内 ☎0166-23-0090
FAX0166-23-1166

北海道観光ボランティア連絡協議会

発行人 会長 山崎博幸

印刷所 総 北 海

旭川市工業団地 2 条 1 丁目 1-23
☎ (0166) 36-5556

挨拶



北海道観光ボランティア連絡協議会

会長 山崎博幸

昨年は、観光ホスピタリティ全道大会が新ひだか町にて開催され、全道各地から集まった皆さんと学び合い、交流を深める事が出来ました。

三宅会長をはじめ、開催に全力を挙げてくださった NPO 法人シベチャリ観光ガイドの会、関係者の皆様には厚く御礼を申し上げます。日高の特色を生かした講演、各団体の事例報告を中心とした分科会、そして馬券を頂き、わくわくしながらレース観戦で一喜一憂、各団体の出し物や、阿波踊りに会場総立ちで盛り上がった交流会、翌日にはアイヌ伝説めぐりや馬産地日高をめぐるエクスカージョンと実に思い出深い大会でありました。見事な大会運営にあらためて御礼申し上げます。

今年の全道大会は、事務局がある旭川での開催となります。本拠地での開催ということで、身が引き締まる思いです。

同時に「観光ボランティア」の大会らしく、日ごろよりボランティア精神とバイタリティーあふれる会員の皆様と共に、楽しく、熱く、交流を深め、大いに刺激し合える機会にしようと計画しておりますので、楽しみにお待ちしておりますと存じます。

最後になりますが、全道各地の観光ボランティアの皆様、そして北海道観光の益々の発展と関係各位のご活躍を祈念し、本稿の挨拶と致します。

皆さん、今年は是非観光ホスピタリティ全道大会イン旭川でお会いしましょう!!

2010 観光ホスピタリティ全道大会 in 新ひだか 開催!!

「観光ホスピタリティ全道大会 in 新ひだか」が、平成22年10月2・3日、新ひだか町コミユニティセンターを会場に開催され、全道各地から約2000人の観光ボランティア同志が集まりました。

まず、北海道観光ボランティア連絡協議会会長表彰が行なわれ、各地域から推薦された7名の方々に表彰状が授与されました。続いて日高野鳥研究所の谷岡隆所長が「天然記念物マガンの飛来するまち」と題して講演、引き続きエドウィン・ダン研究家でシベチャリ観光ガイドの会のメンバーでもある竹田雄三氏が「馬のある町の歴史をたずねてーエドウィン・ダンから映画『北の零年』ー」と題し講演されました。分科会では、昨年から実施された各団体の事例報告

を拡充、「観光ガイドの育成と研修」「地域の特性を生かした観光資源と取り組み」お客様に喜ばれた「おもてなし」の3つのテーマの会場に分かれ、熱心な議論が交わされました。夕方からはお楽しみの交流会。勝馬投票券を受付で渡され席に着き、その日のレースを観戦！会場は大いに沸きたちました。日高ならではの美味を堪能しつつ、各団体の趣向を凝らした出し物で盛り上がり、阿波踊りでは会場みんなで踊りの輪となり、大盛況で終わりました。2日目のエクスカージョンでは、有名な二十間道路や馬産地日高の数々の名所、天皇陛下ゆかりの龍雲閣、アイヌ民族の伝説の地などをめぐり、日高路を存分に堪能できる充実した内容でした。

全道大会会長表彰

青山澄子さん

(室蘭市民観光ボランティアガイド協議会)

安達美智子さん

(士別観光ボランティアガイドの会)

篠田瞳さん

(ふらの観光ボランティアROCCO)

添田巳乃吉さん

(登別市観光ボランティアガイド会)

松下力さん

(かみふらの観光ボランティアの会)

竹田雄三さん

(NPO法人シベチャリ観光ガイドの会)

増田宏さん

(旭川観光ボランティア協議会)

全道大会を終えて

NPO法人 シベチャリ観光ガイドの会

会 長 三 宅 靖 夫



観光ホスピタリティ全道大会in新ひだか」に全道各地からご参加いただきましたボランティア会員の皆さん、二日間の大会、そして日高の印象はいかがでしたでしょうか。

シベチャリ観光ガイドの会は、平成6年に前身の観光ボランティアガイドサークルとして発足し、今年で17年目になります。平成9年には全道大会を開催し、平成16年には特定非営利活動(NPO)法人の認証を受け、法人格を取得し、活動してきています。

当町での全道大会は、平成9年に続き二回目の開催ということと、日高の魅力を少しでも伝えられる内容にしたい、また、全道各地で日々活躍のボランティアガイドの皆様がお集まりいただくのですから、是非この機会に貴重な体験と知恵を交流しあえる有意義な大会にしたいと、開催にあたり当会のほか、町観光課、観光協会など関係団体が加わり、実行委員会を組織して春先から会議を重ね準備を進めてきました。

「講演」は、外部に依頼するのではなく、参加者に地元の観光資源、活動を知っていただける内容にしたいと地元の魅力発信できる「天然記念物マガンの飛来する町」(谷岡隆)と「馬の

ある町の歴史を訪ねて」(竹田雄三)の講演をいただくことに決まり、日高らしさを聞いていただけだと思っています。

また各地で日々活躍のボランティアガイドの貴重な体験と知恵を意見交換できる場として「分科会」を設けることにしました。各地の皆さんには、開催ぎりぎりまで活動の事例発表、座長、アドバイザーをご依頼したところ、ご快諾いただきました。当日は活発なご意見が出て、予定の時間を超過した分科会もありました。

夜には、恒例の交流会。座席は、席札を配付し各地区の方々が交流できるように配慮しました。また、馬産地らしさを演出するために、当日の「勝馬投票券」を配付し、会場ではレースの実況を放映し、当たった方からは歓声が上がっていました。

また、食事の食材にもこだわりました。できるだけ地元食材を使いおもてなしたいと、メニューに工夫を重ね、業者とは試食会もして決めました。お寿司は会場で握っていたのですが、お味はいかがでしたでしょうか。

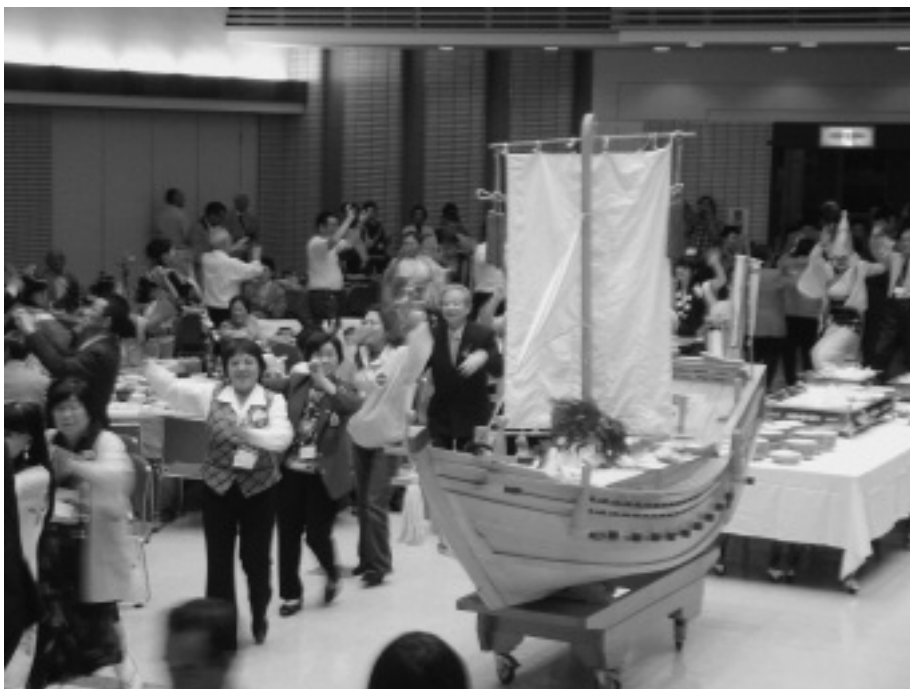
各地からの特徴ある出し物にも大いに盛り上がり、「阿波踊り」では会場の参加者全員が踊りに参加し、まさにひとつの輪

となりました。感極まるものがありました。

二日目のエクスカージョンでは、馬産地の歴史と現在を知っていた、大きくように配慮しました。ひとつは「映画・北の零年」ロケゆかりの史跡と御料牧場・馬産地の歴史、皇族方の宿泊所となっていた「龍雲閣」をご覧いただけるように新冠牧場にご協力をいただきました。また、ア

イヌの歴史にも触れていただくという盛りだくさんの内容を用意いたしました。

新ひだか町を訪れてくださいましたボランティアガイドの皆さん、全道各地で活躍のことと存じます。次回の開催地・旭川市で再会できることを楽しみにしています。ありがとうございました。



会長賞を受賞された方々の 喜びの声

会長表彰をいただいて



士別観光ボランティアガイドの会

安 達 美智子

うららかな秋晴れの十月二日、三日、新ひだか町に於いて観光ホスピタリティ全道大会が開催されました。

全道各地から二〇〇余名の会員が参加されて、新ひだか町の皆様の心のこもった「おもてなしの心」で温かくお迎えを頂きありがとうございます。

この度北海道観光ボランティア連絡協議会会長表彰を受賞させて頂き身に余る光栄と感激で一杯でございます。これも会員の皆様が支えて下さいましたお陰の賜でございます。

皆様に感謝と御礼を申し上げます。今回の受賞に責任の重さを感じています。

私は士別へ嫁いで愛牛(乳牛)と共に奮闘しながら子育て、花

が大好きで我が家を！また地域を！と夢と希望に向かつて無我夢中で過ごしていました。ある日観光ボランティアの養成講座募集が目につき、友人を誘い三人で受講しました。振り返ると沢山の出会い、又色々な体験、研修会に参加させて頂き、歴史文化、自然風土等を知ることができて楽しい一時を過ごさせて頂きました。今回の新ひだか町での全道大会で憧れの牧場の白い牧柵、立派な厩舎、又サラブレッドを目の前で見せて頂き感動と感激で一杯です。

夢の様な素晴らしい二日間でした。私には忘れられない楽しい沢山の思い出が生まれました。最後になりましたが、北海道観光ボランティア連絡協議会の益々のご発展と会員の皆様のご多幸とご健勝をご祈念申し上げます。また大変お世話に成りました関係者の皆様に心から御礼を申し上げます。

感



NPO法人 シベチャリ観光ガイドの会

竹 田 雄 三

この度、10月2、3日、当町で開催されました「観光ホスピタリティ全道大会イン新ひだか」には、全道各地から大勢の参加をいただき、盛会裏に終わることができ、準備をしてきた会員の一人としてお礼と感謝いたしております。

全道大会の席上で北海道観光ボランティア連絡協議会会長賞を受賞させて頂きました。身に余る光栄と心から感謝申し上げます。

これもひとえにシベチャリ観光ガイドの会の会長はじめ会員皆様の日ごろからの温かいご支援とご協力によるものと感謝いたしております。

当会は5月の「しずな桜まつり」の期間、二十間道路桜のト

謝

ンネル前案内所、エントランス広場での観光土産の販売と案内「龍雲閣」での案内と会の一年間の事業でもっとも忙しいときを迎えますが、私は仕事の都合でなかなか参加できません。私のできることと言ったら、

長年、馬の歴史や町の歴史を調べたりしてきていますので、会員の皆さんの観光案内に少しでも役立てればと勉強会の資料作りやお話をしたりすることをお手伝いに偏っています。

今回の全道大会で、日ごろ調査などしてきたことが少しでも町の紹介に役立つのであればと「馬のある町の歴史を訪ねて」と題して、皆さんの前でお話させて頂きました。

今後とも会員の皆さんと一緒に、この町を訪れてくれた方々一人ひとりに「訪れてよかった」と思ってもらえる『おもてなし』の心と笑顔を忘れずに活動を続けていきたいと考えています。全道各地からご参加いただいた皆様、各地での活動を知ることができました。楽しい交流の思い出をありがとうございます。

会長表彰の栄誉を

お受けして

旭川観光ボランティア協議会

増 田 宏

観光ホスピタリティ全道大会が、新ひだか町において10月2、3日にわたって開催され、全道各地から大勢の方が出席される中、盛会のうちに衍なわれまして。その中で北海道観光ボランティア連絡協議会の会長表彰という栄誉をお受けし、誠に恐縮

ながら有難く頂戴いたしました。今後も努めて、観光ボランティア活動に協力して参りたいと決意を新たにしている所です。

旭川の観光ボランティア活動においては、近年世界各地からお客様がいらつしやるようになり、中国語、ハングル、英語などの勉強にも努めて参りたいと思っております。この度は、本当に有難うございました。



地域紹介・ 観光ボランティアガイド 全国大会

渋川伊香保

第15回全国観光ボランティア 大会に参加して

旭川観光ボランティア協議会

塚 原 敬 弘

群馬県渋川市で行なわれた全国大会に参加してきましたので、報告いたします。

イドが頑張つて、地域の活性化に全力投球している。(伊香保の)石段に900人集い、温泉の女将さん達がおかめ会をつくり全国に発信し、行政も地域ボランティアも協力している、との報告がありました。

11月17日(水)

1. まず開会式が行なわれ、主催者である日本観光協会 吉田正嗣理事長より挨拶。我が国経済社会の発展のためには、観光立国の実現が不可欠。観光ボランティアガイドは、豊富な知識と経験により地域の歴史や文化の魅力を先頭に立つて伝え、積極的に観光振興に関わつており、皆様への期待は益々大きくなる、とのお話でした。続いて開催地である群馬県茂原璋男副知事より、群馬県は野菜の産地であり、伊香保、草津、水上等と温泉が豊富で日本観光の玄関。現在JR6社と提携してPR、キャンペーン模索中であるが、全国にPRお願いしたいと話されました。また渋川市の阿久津 貞次市長は当市は5年前に合併し、人口85,000人で、観光方

2. 基調講演は「心を動かす言葉」というテーマで元NHKアナウンサーの加賀美幸子氏が講演されました。

「地域の集まりが日本を構成している。」「心の表現、自然の表現は日本の文化である。」「言葉をつくして人々をひきつける。」「言葉や心の文化は、人々に伝えることである。」「言葉は心を動かす、言葉の力は相手を動かす。」等々、言葉を生業とするアナウンサーらしい、非常に興味深いお話でした。

また「仕事は非凡、普段は平凡であれ」「年を重ねても尚前向きで、それが青春である」「常に前向きで志をもつことである」「笑顔が脳を活性化する。年とは実りである。」「文化と風土を伝えることが観光ボランティアである。」等々、書ききれないほ

どの含蓄のあるお話をお伺いする事ができました。

3. 分科会は第1〜6分科会まであり、それぞれの多様なテーマにそって知識を深める事が出来ました。

(テーマは次の通り)

第1分科会

「ガイド上達に向けた自主研修方法」

第2分科会

「まち歩き観光におけるガイドの役割」

第3分科会

「地域資源の保全と活用」

第4分科会

「今後の観光ボランティアガイド組織の方向性」

第5分科会

「バリアフリー観光への対応」

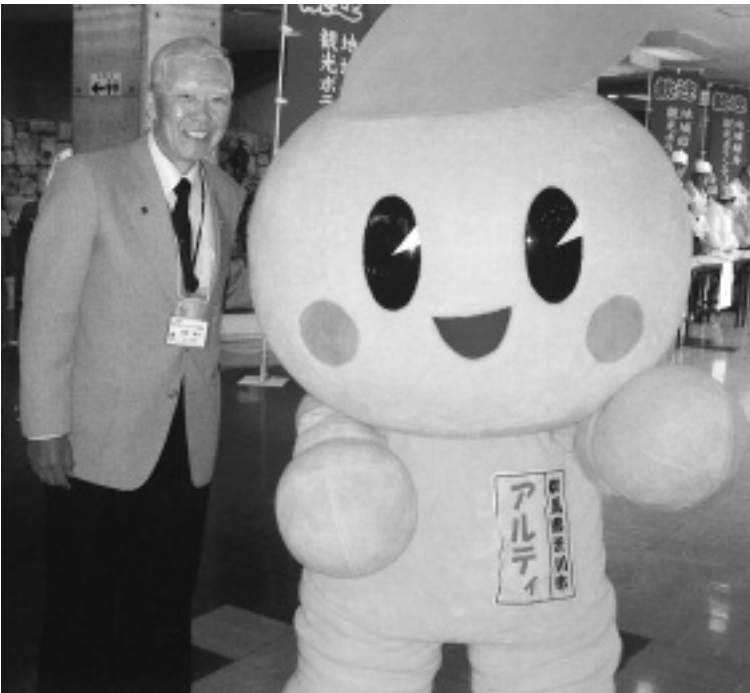
第6分科会

「観光ボランティアガイドによる広域連携への取り組み」

11月18日(木)

4. 群馬県内の観光ボランティアガイドの活動報告がありました。

「伊香保温泉観光ガイドの会」



渋川のマスコット「アルティ」くんと塚原さん

遊友」の富永精司さんによれば、

会は平成12年4月1日発足で、

メンバーは現在11名。活動は年に延べ430回に及ぶ。1回のガイド料2,000円、研修旅行1回実施しているとのこと。

伊香保温泉の湯の色は、茶は

黄金の湯(酸化して色が変わる)、

白は白金の湯で無色である。

活動の心得は、

(1) 誠実

(2) 細心

(3) 几帳面

(4) 愛嬌

(5) 服装は清潔

(6) あまりなれなれしくしない

(7) 数字には強くあれ

ということでは活動しているとのことでした。

続いて「富岡製糸場解説員の

会」神保千代子さんから報告がありました。

群馬県は、かかあ天下の町といわれている。つまり女性は働き者が多いことの云われである。

発足は平成16年4月1日96名

(男66名、女30名)。

群馬は織物のまちである。言葉はゆっくり、わかりやすく、

はつきり言う、言葉の香水とは、

ありがとうございます、感謝の

言葉を言う。との内容でした。

閉会式においては、日本観光

連盟より第15回目の今回で全国

ボランティア大会は終了します。

今後は別の面で支援していく考えです。今後の皆様方のご活躍を祈念申し上げます。との発表がなされ、驚きました。

5. 私は、今回の全国大会(11月17、18日)群馬県渋川市伊香保温泉に参加のため、自主研修を兼ねマイカーで10月27日旭川

を出発し、苫小牧東港から秋田

港までフェリーで行き、秋田県

宮城県、山形県、福島県、栃木

県、群馬県、長野県、富山県、

岐阜県、福井県、等11県、11月

19日迄自主研修をしてきました。

お陰さまでガイド範囲が広がりました。今後のボランティアガイドに役立てたいと思います。

最後の全国大会に参加して

旭川観光ボランティア協議会

前田 琴代

今回一番の驚きは、渋川伊香保温泉で全国大会が最後になるということ。最終日の全体会議で、いの一に「いつ決まったのか、どうしてか」の質問があり、「当初の役目を果たした」との理由でつい最近決まったとのことでしたが、私は仕分けの波が、観光ボランティアにも影響したのだと思っ

ています。

基調講演は、元NHKアナウンサーの加賀美幸子さんのお話

で、すべて納得する内容でした。

その中で特に心に残ったのは、

女優山本富士子さんの事で、仕事は非凡、日常は平凡の生活で、家事もすべて自分でやり、生

方の鍵を見つ、年齢を重ねても尚且つ前向きな気持ちを持ち、

姿形の美しさを凌いでいる生き方をされているというお話でした。

分科会は「今後の観光ボランティアガイド組織の方向性」について79名の出席で行なわれました。まず、人材の確保は市民公開講座を開き、その中から募集する意見が複数ありました。

若い人を確保するなら有料の方が良いとか、質も問われるとの意見もありました。



富沢家住宅

国指定文化財「富沢家住宅」は、旭川米飯（ペーパン）地区の養蚕農家とそっくり！！

次に会員管理はほとんどの地域で高齢化に悩み、OB会員になってもらったり、定年制を設けたり、サポートに回ってもらったことでした。NPO法人については受託事業がやりやすいとか営利部門の利益を非営利部門に回せるなどの利点がある反面、本人の申し出のない限り、退会させられない等の欠点もあるそうです。

楽しみにしていたエクスカーシオンは、小淵元総理の故郷である中之条町巡りで歴史民俗資料館は縄文時代の土器から沼田藩真田氏の近世資料まで膨大な数の展示物でゆっくり時間をかけて見学したいところでした。

国指定文化財の富沢住宅は急斜面の上であり、やっと苦労して登り着くと、なんと旭川の米飯（ペーパン）にある養蚕農家と同じでびっくりしました。ただ一つの違いは茅葺き屋根の下の方が大麻を使用しているのとでした。

来年の全国大会がないのは残念です。

全国大会に参加して

函館観光ボランティア一會の会

林 田鶴子

群馬県渋川市において「地域紹介・観光ボランティアガイド全国大会」が開催され、私は6分科会ある内の第4分科会「今後のボランティアガイド組織の方向性」というテーマの分科会に出席させていただきました。議論の中で、年齢の高齢化による定年制は？という問いに、長

らくやってきていたので仲間であらうからOBになってもらっている、足がダメなら頭を使って歩く役目をしている、薬箱を持っているんな話がありました。スタッフの人数確保は？という問いには、市民公開講座を開き、その中からガイドさんを見つけているという会が多かったそうです。組織ということでは、NPO法人になったら良い事がありますので、これからこの方向



(左) 林さん、(右) 函館一會の会佐藤会長



群馬のだるまめぐりで元気をもらいました！

に考えていって下さいとのアドバイザーからのお話もありました。補助金がもらえる、市の会議所に入れる、銀行もお金を貸してくれる、営利部門のお金を非営利部門に回せる、市等からの受託事業が受けられる等々、いろいろ考えさせられる分科会でした。

全国屈指の伊香保温泉、世界

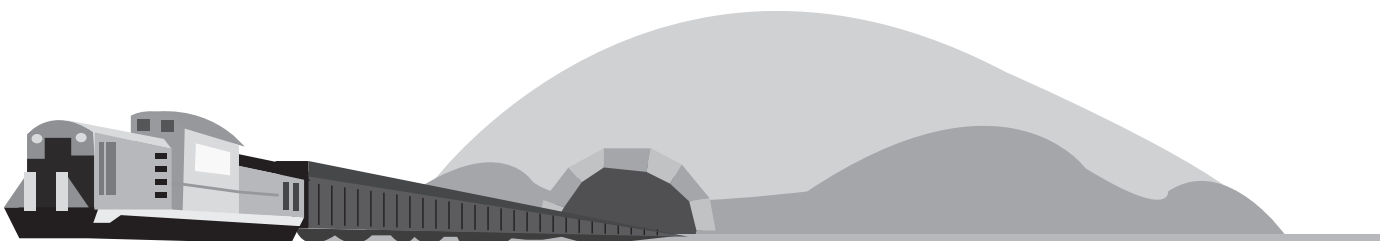
遺産候補であり、日本の工業化はここから始まったという富岡製糸場や、どんな困難も七転び八起きの精神で克服出来るように願をかける達磨大師の少林寺達磨寺等を、ボランティアの方々に地元ならではの案内をしていただき、自分等も元気をもらい有意義な時を味わせていただきました。

只、残念に思った事は今回で全国大会は一応終了すると言われた事でした。

H7年から始まった全国大会、47都道府県の中30の地域が加わり、272団体から1623団体に増え、41,500人以上が携わる団体へと成長し協会での役割が終わった、地域における観光ボランティアの普及とい



う最初の目的を十分達成したという事でした。この大きくなった素晴らしい団体を縮小の方向に向かう事なくすべてに対して考え方を見直していただき、又全国大会を復活させて戴きたいものと願っております。



各地域の観光ボランティア活動

地域ボランティア

ガイドとして



美幌観光ボランティアガイドの会

会長 西 島 美智子

思い起こすと昨年の夏は猛暑であり、北海道各地で御活躍の皆様方は、そうした暑さにも負けず、元気に活動を続けられていたのではないのでしょうか？今では一昔前のことのようにも思えます。

少子高齢化社会の中で多様化、個性化、情報化が進む現代、人と人との出会い、心の大切さが一層強く望まれる時代となっております。そんな時、私達も微力ながら、観光ボランティアガイドとして、ホスピタリティ精神をもって、地域に根ざした活動を続けて行かなければと会員一同頑張っております。

我が町の春、観光客の交通安全と峠の発展を祈願して毎年実施される「美幌峠まつり」は霧

に包まれることが多いのですが、四季折々を魅せる峠の景色は本当に絶景です。

夏は、口蹄疫問題でギリギリまで実施が危ぶまれた「びほろ観光和牛まつり」を無事終えることが出来ました。

秋の「観光ホスピタリティ全道大会」は、新ひだか町さんが2回目の当番地として開催されました。エクスカージョンでは短い時間の中で、日高地方が誇る「競走馬の町」としての名馬や白い厩舎、龍雲閣、英雄を讃えたシャクシャイン像とその歴史資料館、春には一度訪れたい場所、二十間道路の桜並木などをガイドして頂き、思い出多い大会でした。三宅会長はじめ、「シベチャリ」の会員の皆様のご苦勞に感謝、御礼を申し上げます。

また、今年の群馬県伊香保で開催された「全国大会」に、道観光ボランティア連絡協議会より助成金を頂き、事務局が参加して参りました。実り多い大会との報告を受けており、有り難う御座いました。最後にになりましたが、山崎会

長を始め役員の方々には、御多忙にも関わらず組織運営に御努力頂き、誠に有り難う御座います。

す。今後とも宜しく御指導の程、お願い致します。

二十歳になつて



登別市観光ボランティアガイド会

工藤 恵子

登別市観光ボランティアガイドが設立されて二十年、私がガイド会に入会して十八年になります。五月と十月迄で、観光無料案内ガイドを実施しています。昨年登別を訪れた観光客は海外、国内合せて約百三十八万六千六百人で、その内外国人は、十万五千七百人、内訳は台湾人五万一千五百人、韓国人三万一千八百人、香港人一万四百人、その他、シンガポール、メキシコなど多くの国々からいらつちやっています。

私たちがガイド会では、そうし

た登別を訪れ、地獄谷をひと目とやってくる方達を、中央展望台の看板をバックに写真を撮り、薬師如来、鉄泉池のコースまで案内したり、また数十年前から大規模な火砕流を伴う噴火を繰り返していたクツタラ火山では、「日和山生成に続いて起こった爆裂火口の跡と言われている」と言われています。お客様からは「気の遠くなるようなお話です」と言われることもしばしばあります。大正地獄、大湯沼から流れ出るお湯を利用して作った天然の足湯が、今登別で一番の人気スポットですが、ここが雨によって崩壊し、腰掛け用の丸太が流出してしまつた際には、早速市がシラカバなどの倒木を幅二メートル、長さ五メートルの広さに並べ流出前の状況を復元、週末には再び観光客が真新しい丸太に座り、足をつけると、気持ちいい笑顔を見せてくれ、来



大人気の登別温泉「足湯」

て良かった、また来ますと、何回も言って戴きました。私もホッとして、ありがたいの返事、登別温泉の魅力を再度訪れてこられるお客様に満足して頂き、笑顔でお迎え出来て良かったと、言える年になる事を祈念して活動を続けたいと思います。

最後になりましたが、全道ボランティア会員の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。



稚内市民観光ボランティアガイド

中 澤 和 一

何でもやってみよう

平成20年3月、稚内観光マイスター初級試験が実施されました。

試験会場には多くの顔なじみが受験しており、その後初級合格の安堵感もあったのか、観光協会の事務所に何人かの仲間が集い、夏には10名余りが賛同し当会が結成されました。推進委

員会では、初級と中級と上級試験を計画し、平成22年11月の各級試験が実施されるまで、受験者数は583名、有資格者は370名を数えています。

昨年からは、会員による中級と上級試験に向けての勉強会を10日間図書館で行い、会員の合格率は群を抜いています。今年12月までの当会の活動を紹介しますと、当会会員は「好奇心のかたまりの中青年団体」であることはまちがいありません。

現在会員は30名。全員が有資格者で、北海道観光マスター試験にも挑戦し、10名余りが認定書を持っています。

稚内には観光名所が幅広く点在しています。主な名所は、日本最北端の地の碑がある宗谷岬と宗谷丘陵の周水地形と宗谷歴史公園と会員の集合場所「稚内築港市場」も稚内公園とノシヤップ公園等々、宗谷岬から宗谷湾を周り、利尻島を最短に望む西海岸まで50kmの距離内が活動範囲です。

ゴールデンウィークからガイド活動が始まり、毎週土・日曜日を利用し、昼前の2時間、2、3グループに分かれ、1日平均10名位でガイド活動を行なっています。

他に自然観察会やスノーシュー体験、クリーン作戦協力参加

観光協会から依頼があった、「同行バスガイド」(内、青少年交流事業協力やブラジル日系人観光団ガイド)更に、観光協会のイベント協力として、稚内観光クイズの出題や、歳末たすけあいチャリティー「稚内名士カラオケ歌謡祭」に初参加、御当地ソング「宗谷岬」を唄い、歌詞を女性グループが手話で披露し、男性グループがイメージキヤラクターの出汁之介(だしのすけ)で踊り、当会ののぼりを高々と舞揚げ大喝采を浴びました。

もう一つの初参加は、稚内みなと南極まつり「南極おどり」に家族も含め多数で参加、トレッドマークの黄色のジャンパーに緑色の帽子で当会をPRしました。

平成21年には、稚内市のメモリアル事業「間宮海峡発見200年記念・間宮林蔵展」が稚内公園内「開基100年記念塔」で開催されました。会員は当時の樺太踏査の衣服を着用し、林蔵が残した資料の前では、「研修会」で習った出来事を説明し、市民や旅行客の方々に、(たどたどしく)ガイドできました。(全員が初めての経験)

今年の10月からは、教育委員会主催による「稚内学」が開講され、歴史・自然・産業・文化

等幅広い知識を身に付ける様に仲間を誘い現在も受講しています。私の職業は、35年間漁船生活でしたので、11月、稚内学の「漁業・稚内沖合底曳船の今昔」をテーマに映像を取り入れながら、ドキドキの90分間講演してみました。

最後に、昨年の「2010年観光ホスピタリティ全道大会in新

ひだか」では大変お世話になりました。素晴らしい大会でした。7名で参加できたので「将来は稚内で大会を」などと話すことがあります。これからも、行政や協会と情報を交換しながら切磋琢磨し、今後の観光活動に役立たいと思っております。旭川で会える日を楽しみにしております。



間宮林蔵が活躍した当時の衣装でガイドをしました！

森町桜祭りへ、 どげんぞいらいらいてくんだぞい！



森町観光ボランティアガイドの会

吉田 正之

皆さん こんにちは！

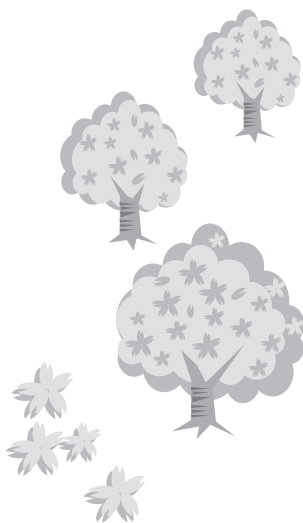
私は森町観光ボランティアガイドの会の吉田正之です。森町では毎年5月3日から青葉ヶ丘公園、道の駅「you遊もり」に隣接したオニウシ公園（オニウシはアイヌ語で「森」の意味）を会場に「桜祭り」が盛大に行われ、北海道はもちろん全国からたくさんの方の観光客がいらしてくれます。最近ではリピーターも多いようです。私たちボランティアガイドも期間前に桜の枝にやさしい縄を使った名札をつけたり、桜のガイドコースや説明文の確認を行い、期間中は公園に常駐、いらしてくる方に花を見ながら品種の説明や、テントの前で開花時の写真の説明をします。どうしても品種の関係

で早咲きや遅咲きの桜があるため、すべてが同時に開花していることはありません。貴重な時間を割いて公園までいらしてくれたお客様のために、このような試みと共に、このように毎年公園で会員が採取した桜を使った「桜茶」を無料で試飲してもらっています。またボランティア教育の一環として小、中、高校生のボランティアクラブの生徒の公園でのガイド実践指導を行っています。そのようなクラブに所属している生徒は驚くほどボランティア精神が旺盛で、私たちの方が逆に学ぶことも多いのが正直な感想です。

森町在住の田中淳（まこと）氏が品種改良を手がけた、森町

でしか見ることの出来ない桜の品種があります。花びら一枚一枚のすべてのグラデーションが違う、一般公募で名前がつけられた「森小町（もりこまち）」、森町の秀峰「駒ヶ岳（べにこま）」、けられた「紅駒桜（べにこま）」、日本で初めて枝垂れ桜の品種改良に成功し、桜の仲間では最大の花びらの大きさをもつ「青葉しだれ桜」など、多様な桜の姿をご覧いただけます。また公園全体が芝生なので、ジンギスカンや地元の名産品など食事もしむことができます。桜の季節には、どうぞ森町桜祭りへいらしてください。

今後もホスピタリティ精神で地域発展のため観光の向上に貢献し、更に地域でホスピタリティ精神の普及啓蒙を図っていきたいと思います。今後とも森町観光ボランティアガイドをよろしくお願いいたします。



「丘のまちびえい」と

広域観光圏



社団法人美瑛町観光協会 観光ボランティア

高橋 義

十勝岳
火は生くかぎり

絶えせねば

けはしき道も
我は行くべし

富良野と十勝を愛した歌人・小田観登は自らの人生の厳しさを十勝岳への道のりにたとえてこの歌を詠みました。この歌を初めて知ったのは小樽にいた十八歳の頃でした。以来この歌は私の人生の応援歌のひとつとなりました。何とこの昭和三十七年六月二十九日に十勝岳は大正十五年以来の大噴火を起こしたのですから忘れることは出来ません。その後私は、毎日この山が見えるところに住むようになりました。

昨年観光ボランティアの一員に加えられ、すぐに富良野・美瑛広域観光圏の方々とともに圏内の各地を回る研修に参加しました。移り住んで六年目の私にとつてこの研修はとても嬉しいものでした。ふだん何気なく通っている各地域にある見所と新たに加えられた観光施設を一挙に知ることができたからです。一番うれしかったのは、この研修で多くの仲間が与えられたことです。この広域観光圏は大雪山国立公園の十勝岳連峰と日高山系また東大演習林などの広大な地域でありその周囲の地域の観光協会からなっているのです。

七月から九月までのわずかの間のボランティア活動ですが、全国から来られた方々にこの十勝岳の裾野に広がる「丘のまちびえい」の魅力を生き生きと伝えることが私たちのつとめです。同時に広域圏の各地にも大きな魅力があることを伝えることができます。

この夏、仕事とボランティアの合間を見て「丘のまちびえいの高さくらべ」をやってみました。国土地理院のホームページ

ジを活用して、有名な丘やコースごとの名所の高さを記録してゆくのですね。今まで距離と時間だけお客様に案内していたものへ、高さを加えることで立体的に案内することができると思っていたのです。「丘のまちびえい」

とこの広域圏は様々な方法で楽しむことができます。自動車やバスの他、徒歩、マラソン、自転車、スキーなどの楽しみにも役立つ新しい案内方法を見つけて出し、訪れるお客様に楽しく伝えて行きたいと思えます。

観光検定試験への挑戦



旭川観光ボランティア協議会

峯村 伸哉

お客様に観光案内をするときには、地元のことばかりでなく、お客様の住む地方の知識も持ち合わせていると話題が増え、案内がスムーズにいくことがあります。この意味で日頃からさまざまな観光関連の検定試験に挑戦し知見を高めておくのは有効です。そこでどんな試験があるのかをみてみます。いずれもインタ

ーネットで詳細が検索できます。

1. ご当地検定試験

旭川大雪観光文化検定、函館歴史文化観光検定、札幌シティガイド検定、おたる案内人、とかち検定(帯広)、くしろ検定、稚内観光マイスター検定は、それぞれ市の商工会議所あるいは市役所観光課が主管する検定試験です。

観光ばかりでなく、歴史、産業、文化芸術なども含めたその土地の広い知識が問われます。公式テキストがあり、4択試験が基本です。合格ラインはそれぞれ異なりますが、最低でも6割は必要のようです。合格者には観光施設入場料割引といった何らかの特典もあるようです。

2. 北海道全体が対象の試験

道商工会議所が主催する北海道観光マスター試験は、北海道についての幅広い知識を問う4択試験で、7割以上の得点で合格です。公式テキストがあり、試験は例年11月23日に道内22カ所で行われます。これまで5回実施され、道観光ボランティア連絡協議会も協力しています。

道新がバックアップするほつかいどう学検定は、公式問題集があり、歴史・文化、自然環境の2部門での試験です。道内が活動範囲の地域限定通訳案内士の教養試験にも観光地理の科目があります。

3. 日本と世界が対象の試験

国土交通省観光庁が主管する旅行業務管理者試験の中に、観光地理の部門があります。この試験は国内と総合に分かれており、前者では国内の、後者では世界の観光に関する知識が問われます。

この試験は観光地理のほかに、旅行関連の法律や、JR、フェリー、飛行機等の交通機関の運賃計算なども対象となります。国内又は海外の観光地理に特化した試験に、JTBが関わる旅行地理検定試験があります。

「笑顔で旭川でお会いしましょう！」

旭川観光ボランティア協議会

代表幹事 北 野 晃

皆さん、こんにちは！
旭川観光ボランティア協議会の北野と申します。

昨年、大盛会であった新ひだかでの全道大会において、山崎会長と共に壇上に上り、今回の全道大会を旭川で開催させていただくことを宣言させて頂きました。90名を超える大所帯の旭川で、観光ボランティアの大会に恥じない、ホスピタリティ精神を再認識し合えるような大会にしようと張り切っておりますので、よろしくお願いいたします。

旭川では、今年2月8日より13日まで6日間の日程で「第52回旭川冬まつり」が開催されました。旭川のボランティアにとっては最大のイベントであり、我々旭川観光ボランティアを中心に、他ボランティア団体、社会福祉協議会、市内高校生、公募市民ボランティアと協力し、延べ人数で約350人におよぶボランティア活動を展開しました。会場案内通訳、清掃活動、シャトルバスでの観光ガイド、ジンギスカンハウスの運営などボランティア総動員でイベントの運営にあたりました。会場内で一番多いのは、ギネスブックにも載った世界最大級の大雪像前で写真撮影のお手伝いです。スタッフのゼッケンには「シャッター押します」の文字が書かれており、目にした観光客から次々にシャッター押しの依頼が寄せられます。アジアを中心に外国人の姿も多く、英語、中国語も飛び交います。シャッター押しぐらいなら、言葉が通じなくても身振り手振りで応対できます。笑顔と度胸が大切です。

日ごろから観光ボランティア活動に従事する全道の会員の皆様と、お会いできるのももうすぐです。笑顔で楽しく、全道大会開催を

迎えられたらと思っております。
皆様、是非旭川でお会いしましょう！！



あ と が き

昨年の5月のことですが、北海道観光ボランティア連絡協議会の総会を事務局のある旭川で開催致しました。前任のムリゲンから私が引き継いだばかりで右も左も何もわからない中、全道の理事の皆様の深いご理解とご協力のお陰でなんとか議事を進行することができました。

▼今回は単なる総会ではなく、旭川らしいおもてなしを試みようとして総会会場を「地酒蔵大雪乃蔵」に設定、議事後は旭川観光協会の重野専務の特別講演で旭山動物園の裏話を披露、そして総会後には懇親会を企画し、地酒&地ビールと山海の幸溢れる夕食に舌鼓、和やかな雰囲気の中で総会とは違う率直な意見も飛び交い、実に有意義な会合となりました。その後2次会3次会も設定され、旭川の歓楽街サンロクのネオンに、全道の理事の皆様の歓声、美声？が響き渡ったことは言うまでもありません。

▼翌日は、総会記念エクスカーションを実施！参加人数は少なかつたものの旭山動物園上野ファームを巡り、時間が若干余ったので旭川空港を経由して就実の丘から、真っ青な早春の空に、真白な雪を頂いた雄大な大雪山連峰と丘陵地帯の絶景をご覧戴きました。

▼今年はいよいよ旭川開催となる全道大会ですが、観光ボランティアと観光協会スタッフで趣向をこらし、シベチャリの皆さんのおもてなしに負けないような大会を開催しようと策を練っております。宜しくお願い致します。